

インドネシア語の動詞接頭辞

— 接頭辞 [meN-] の意味・機能を中心に —

デデイ スリヤデイ

(2007年10月4日受理)

Research on Prefix Verbs in Indonesian Language
— A Focus on the meaning and function of the prefix [meN-] —

Dedi Suryadi

Abstract. Indonesian language has a prefix called [meN-]. It is one of the important prefixes in Indonesian language. In this research, various usages and functions are studied. Result of the study show that prefix [meN-] is able to change a basic form of a word into a derivative verb. Prefixing any words with [meN-] would require a minor spelling change (inflection) in order to facilitate a smooth transition in pronunciation. The inflection is based solely on the first letter of the original word. Furthermore, in spoken language, because of the influence of regional dialect, prefix [meN-] is abbreviation. It is necessary to teach this prefix to Japanese learning Indonesia language. On the other hand, in order to comprehensively understand the meaning of active voice in Indonesian language.

Key words: indonesian language, derivation verb, prefix, regional dialect, abbreviation of affix

キーワード：インドネシア語、派生語、接頭辞、地域方言、接辞の省略

1. はじめに

インドネシア語は、単語の基本的な概念を表す語根に様々な接辞をつけることによって、文法的な機能や付加的な意味を与える仕組みになっている。以下の例を見てみよう。[baca] というのは「読む」という単語 [membaca] の基本的な概念を担う語根である。この単語 [baca] 自体が接辞なしで具体的な文の中で使われることはない。接辞をつけることによって初めて使用可となる。[baca] を基本として、接辞を付加することより、動詞から名詞まで派生させている。

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：町 博光（主任指導教員）、多和田真一郎、浮田三郎、酒井 弘、中尾佳行

例：membaca 「～を読む」
membacakan 「～を～に読んでやる」
membaca-baca 「～をざっと読む」
bacaan 「読み物」
pembaca 「読者」
pembacaan 「読むこと」

このように、インドネシア語においては接辞が大変重要な役割を果たす。インドネシア語における単語のほとんどは語根と接辞とから成り立っている。したがってインドネシア語の辞書を使うためには、まず、これらの語根を知っておく必要がある。また、動詞には、接頭辞、接尾辞がつくことでさまざまな単語に変化するが、このルールが分かっていないと辞書も引けないことになる。

2. 研究の目的

本稿ではインドネシア語の動詞の接頭辞の意味・機能を日本語と対比させながら、その接辞の特質を明らかにしていく。数多くの接頭辞の中でも、接頭辞 [meN-] とその派生語を中心に探っていく。[meN-] はインドネシア語の接頭辞の中でも使用頻度が高く、重要な接頭辞であるからである。

3. インドネシア語の動詞の種類

[meN-] の機能を見ていく前に、まず、インドネシア語の動詞について説明しておこう。

Saya membelikan adik mainan.
私 買う 弟 おもちゃ
(私は弟におもちゃを買ってあげた。)

上の例文における語の中で、構成要素のみから成る単純語は、Saya (私) および adik (弟) である。一方二つ以上の構成要素から成る合成語は、membelikan (買ってあげる) および mainan (おもちゃ) である。合成語 membelikan は [meN-], [beli], [-kan] の三つの構成要素に分解することができる。

インドネシアの動詞はその構造から大きく二種類に分類される。一つ目は「単純動詞 (verba tunggal)」と呼ばれ、単一の構成要素からなるもので、二つ目は「派生動詞 (verba turunan)」と呼ばれ、二つ以上の構成要素からなるものである。単純動詞には makan (食べる), tidur (寝る), pergi (行く), datang (来る) などがあり、派生動詞には membeli (買う = mem + beli), bermain (遊ぶ = ber + main) などがある。

インドネシアの動詞は構成法から見た場合大きく単純動詞と派生動詞に分類されることができる。

他動詞と自動詞

態の観点からみると、インドネシア語の動詞は「他動詞 (verba transitif)」と「自動詞 (verba intransitif)」に分けられる。他動詞とは、その動詞で表されている動作の行為者と被行為者の関係を表す動詞で、そのためにはもちろん主語と目的語を必要とする。一方の自動詞はその関係を必要としないものである。そのため、他動詞には必ず能動態、それに対応する受動態が存在するが、自動詞は目的語を伴わないため受動態にすることはできない。インドネシア語の他動詞、自動詞を見分けるには、まず動詞の形態から見分ける方法がある。接辞の機能から考えれば、接頭辞「ber-」を含むものは必ず自動詞であり、接尾辞「-kan」, 「-i」を含むものは必ず他動詞である。しかし、この形態からの判断だけでは、単純動詞や自動詞、他動詞の自他いず

れもの可能性を持つ、接頭辞 [meN-] を含む動詞を見分けることはできない。

そこで、松岡 (1990: 29) は接頭辞 [di-] の付加できる動詞を自動詞、そうでないものを他動詞とする方法を主張している。確かに、接頭辞 [di-] 受動態・三人称を表す接辞であり、自動詞からは受動態が作れないことを考えると有効な方法であるといえる。

他動詞と自動詞を見分けることによって、インドネシア語の接辞の意味・機能、特に接頭辞 [meN-] の意味・機能が詳細に説明できる。

4. インドネシア語の動詞接辞の種類

インドネシア語における接辞は、(1) 接頭辞、(2) 接尾辞と (3) 共接辞の三つに分類される。接辞は語根につくことによって、動詞化、名詞化、副詞化などを構成することができる。ここでは動詞化を担う接辞について説明する。インドネシア語の動詞接辞の種類は以下の通りである。

- [1] 動詞に接続する接頭辞 (awalan pada verba)
 - ① 接頭辞 [meN-]
 - ② 接頭辞 [ber-]
 - ③ 接頭辞 [di-]
 - ④ 接頭辞 [ter-]
- [2] 動詞に接続する接尾辞 (akhiran pada verba)
 - ① 接尾辞 [-i]
 - ② 接尾辞 [-kan]
- [3] 動詞に接続する共接辞 (imbuhan pada verba)
 - ① 共接辞 [meN- 動詞 kan]
 - ② 共接辞 [meN- 動詞 -i]
 - ③ 共接辞 [ber- 動詞 -kan]
 - ④ 共接辞 [di- 動詞 -kan]
 - ⑤ 共接辞 [di- 動詞 -i]
 - ⑥ 共接辞 [ter- 動詞 -kan]
 - ⑦ 共接辞 [ter- 動詞 -i]

崎山理 (1982: 75) によると、インドネシア語の基本的な動詞化の接頭辞としては「ber-」と「meN-」があり、前者はその付いた語幹を自動詞化、後者は他動詞化するという動きがあると指摘している。確かに、接頭辞 [meN-] は語根を他動詞化する働きがあるが、場合によって、自動詞化する働きもあると考えられる。例えば、memendek (短くなる), memanjang (長くなる), melompat (跳ぶ) のように [meN-] が付いていても自動詞であるものもある。

本稿では、インドネシア語における接辞の意味・機能を考察するが、膨大なため全てを取り上げることができない、特に動詞における接頭辞 [meN-] とその

組み合わせを取り上げ、接頭辞 [meN-] の持つ意味・機能を考察していく。

5. 接頭辞 [meN-] とその組み合わせ

5.1. 接頭辞 [meN-] の形態変化

崎山理 (1982: 108) によると、「me- の前鼻音化」という特徴的な形態音韻論的な現象であると述べている。つまり、接頭辞 [meN-] が語幹に付く際には、N の部分が語幹の頭音によって、それぞれ対応する鼻音 [m, n, ny, ng] に変化する。接頭辞 [meN-] の N は、鼻音 [m, n, ny, ng] を表す。語根のはじめの音に応じて、N は 4 つの鼻音のいずれかとなり [mem-], [meN-], [meny-], [meng-], という形になるか、または鼻音変化を起こさず N が脱落して [me-] という形になる。

また、ホラス (2006: 15) によると、形態変化には次の規則が認められている。

- [1] N が消え、[me-] の形となる。
- [2] 語幹の頭音に N がかぶさり、語幹の頭音が鼻音に変わる。
- [3] N が鼻音に変化してそのまま語幹に付く

具体例は以下の通りである。(例は筆者による)

- [1] N が消えて me- の形となる。
基語が鼻音 (m, n, ny, ng) および l, r, w, y ではじまる場合は、[meN-] の N が変化せず消える形になり、結果として me- という形で付く。(1)

語頭	基語	派生語	意味
m	mulai	memulai	始める
n	nikah	menikah	結婚する
ny	nyanyi	menyanyi	歌う
ng	ngarang	mengarang	作文を作る
r	rasa	merasa	感じる
l	lihat	melihat	見る
w	wakil	mewakili (-i を伴う)	代表する

- [2] 語幹の頭音に N がかぶさり、語幹の頭音が鼻音に変わる。
p, t, s, k ではじまる基語の場合は、[meN-] の N が基語のはじめ (語頭) の音にかぶさる形になり、その結果それぞれ m, n, ny, ng に変化する。p / m, t / n, s / ny, k / ng という音の組み合わせは、口内の同じ (または近い) 部分で発音するという共通性がある。

(2)

語頭	基語	派生語	意味
p	pakai	memakai	使う
t	tulis	menulis	書く
s	simpan	menyimpan	置く
k	kirim	mengirim	送る

- [3] N が鼻音に変化してそのまま語幹に付く。
b, d, g, c, j, h および母音 (a, é, i, o, u, e) ではじまる基語の場合は、meN- の N が基語の語頭に対応した鼻音が現れる。対応する音の組み合わせは、口内の同じ (または近い) 部分で発音するという共通性がある。

(3)

語頭	基語	派生語	意味
b	bawa	membawa	運ぶ
d	dengar	mendengar	聞く
c	cuci	mencuci	洗う
j	jawab	menjawab	答える
g	gambar	menggambar	絵を描く
h	hitung	menghitung	数える
母音	ambil	mengambil	取る

接頭辞 [me-] は、その語根となる語の最初の文字がその形を変化させるのである。まとめると、接頭辞 [meN-] の形態変化の法則は下記の通りである。

- ① [me-] のまま → l, r, m, n, ny, w, y から始まる語。
- ② [mem-] に変化するもの → b, p (p は欠落する) で始まる語。
- ③ [meN-] に変化するもの → c, d, j, t (t は欠落) で始まる語
- ④ [meng-] に変化するもの → 母音, g, h, k (k は欠落) で始まる語
- ⑤ [meny-] に変化するもの → s (s は欠落) で始まる語

欠落とは、上記例文で、[kirim] (=送る) の「k」が抜けて、[mengirim] となっている例で確認できる。他の例も同様の欠落方法で動詞が出来上がる。

5.2. [meN-] 自動詞と [meN-] 他動詞の区別

佐々木 (1982: 297) は、「接頭辞 [me- 動詞] のプロセスは、出発点から帰着点に向かう, mendarat「上陸する」, memburuk「どんどん悪くなってゆく、悪化する」, menggunung「山のようになる」などに見られる語幹の意味する所、物、性質に「向かう、向かって変化してゆく、のようになる」のプロセスである」と述べている。つまり、接頭辞 [meN-] を伴うことのできる派生語は、自動詞と他動詞の両方があり、自

動詞か他動詞かは、語幹によって決まっている。
[meN-] 自動詞は、補足する語を直接伴わない場合と、
名詞や形容詞を補足する語として直後に続ける場合と
があるが、文中で対応する主語は《動作主》である。

(4) Kondisi badan saya membaik

<体調 体 私 よくなる>

私の体調は良くなっている。

(5) Saya merasa sedih sekali.

<私 思う 悲しい とても>

私はとても悲しく思います。

一方、[meN-] 他動詞は、文中で《動作主》と《動作対象》の両方を必要とする。さらに、話の展開に応じて《動作主》を主語とする文も《動作対象》を主語とする文もでき、これらを区別するために [meN-] 形、ゼロ形、[di-] 形の3つの形を使い分ける。《動作主》を主語とする文では [meN-] 形を、《動作対象》を主語とする文では、ゼロ形または [di-] 形が用いられる。

基語（語幹） beli

meN- 形 membeli 「～を買う」

ゼロ形 beli

di- 形 dibeli

以下の (6) が [meN-] 形で、(7) がゼロ形で、(8) が [di- 形] の例である。

(6) Saya membeli buku ini kemarin.

<私 買う 本 この 昨日>

私は昨日この本を買った。

(7) Buku ini saya beli kemarin.

<本 この 私 買う 昨日>

この本は昨日（私が）買った。

(8) Buku ini dibeli oleh ayah saya kemarin.

<本 この 買う に 父 私 昨日>

この本は昨日私の父が買った。

5.3. 他動詞語幹を形成する接辞と接頭辞 [meN-] の関わり

他動詞の語幹を形成する接辞として、接尾辞 [-kan] と接尾辞 [-i]、そして接頭辞 [per-] がある。これらを伴ってできた他動詞語幹は、話の展開に応じて《動作主》を主語とする文も《動作対象》を主語とする文もでき、これらを区別するために [meN-] 形、ゼロ形、[di-] 形の3つの形を使い分ける。《動作主》を主語とする文では [meN-] 形を、《動作対象》を主語とする文では、ゼロ形または [di-] 形が用いられる。

基語（語幹） masuk 「入る」

[meN-] 形 memasukkan 「～を入れる」

ゼロ形 masukkan

[di-] 形 dimasukkan

基語（語幹）

[meN-] 形

ゼロ形

[di-] 形

kunjung (berkunjung 「訪れる」)

mengunjungi 「～を訪れる」

kunjungi

dikunjungi

基語（語幹）

[meN-] 形

ゼロ形

[di-] 形

panjang 「長い」

memperpanjang 「～を延長する」

perpanjang

diperpanjang

基語（語幹）

[meN-] 形

ゼロ形

[di-] 形

satu 「1」

mempersatukan 「～を統一する」

persatukan

dipersatukan

基語（語幹）

[meN-] 形

ゼロ形

[di-] 形

baik 「良い」

memperbaiki 「～を修理する」

perbaiki

diperbaiki

外来語音 (f, v, z, sy, kh) で始まる語幹に対しては、接頭辞 [meN-] は N がそれぞれの異音に対応して変化する。語幹が一音節のみの基語である場合には、接頭辞 [meN-] は N が変化するか、もしくは [menge-] という形になる。

5.4. 接頭辞 [meN-] 自動詞の意味

佐々木 (1982 : 297) によれば、「接頭辞 [me- 動詞] のプロセスは、出発点から帰着点に向かう、mendarat 「上陸する」、memburuk 「どんどん悪くなってゆく、悪化する」、menggunung 「山のようになる」などに見られる語幹の所、物、性質に「向かう、向かって変化してゆく、のようになる」のプロセスである」と述べている。

つまり、[meN-] 自動詞は、接頭辞 [meN-] を伴ってできる派生語のうち自動詞として働く。文中で対応する主語は《動作主》である。語によっては、必要に応じて名詞や形容詞を直後に続けて意味を補足する。

[meN-] 自動詞の語例は以下の (9) のようになる。

(9)

meN-他動詞	意味	語幹 (意味)
membaik	良くなる	baik (良い)
memburuk	悪くなる	buruk (悪い)
mendarat	上陸する、 着陸する	darat (陸)
menguning	黄色くなる	kuning (黄色)
menjadi	～になる	jadi (なる)

[meN-] 自動詞の中には、比喩表現の中で「(語幹) のようになる」といった意味で用いられる語がいくつ

かある。

- (10) a. membanjir 「洪水のごとく溢れる」
 (基語: banjir 「洪水」)
 b. menghijau 「青々と繁る」
 (基語: hijau 「緑色」)
 c. menghujan 「雨のごとく降り注ぐ」
 (基語: hujan 「雨」)

上記の (10) の a では “banjir 「洪水」” の基語から, “membanjir 「洪水のごとく溢れる」” のような比喩表現の意味を持つ派生語になる。(10) の b の例と (10) の c の例も同様である。

5.5. [meN-] 他動詞と人称詞構文

[meN-] 他動詞 (他動詞語幹を作る接尾辞 [-kan], [-i], 接頭辞 [per-] を伴う派生語を含む) は, 文中における《動作主》と《動作対象》を明示するため, [meN-] 形, ゼロ形, [di-] 形の3つの形を以下の基準で使い分ける。

【1】 [meN-] 形: 対応する主語が《動作主》

【2】 ゼロ形: 対応する動作主が《動作対象》であり, 基本的に《動作主》が1・2人称

【3】 [di-] 形: 対応する動作主が《動作対象》であり, 基本的に《動作主》が3人称

《動作対象》を主語とする文は, 《動作主》が1・2人称か3人称かでゼロ形と [di-] 形を使い分けるため, ここでは「人称詞構文」と呼んでおく。3つの形を用いた文型は, それぞれ以下ようになる。

他動詞は《動作主》と《動作対象》という2つの名詞句を文中で必要とする。他動詞は, 話の展開によって《動作主》を主語として「○○さんは (△△を) ~する/した」と言うこともあれば, 《動作対象》を主語として「△△のことは (○○さんが) ~する/した」と言うこともできる。

[meN-] 他動詞は, [meN-] 形, ゼロ形, [di-] 形の3つの形を使い分けることにより, 《動作主》を主語とする文も《動作対象》を主語とする文も作ると述べることができる。

以下では, 「私」(1人称)や「あなた」(2人称), その他の人物(3人称)を動作主として, 動作対象となる「書類」を「受け取る」という状況を例にとって, 文型を説明していく。

[meN-] 形は対応する主語が《動作主》文の主語が [meN-] 他動詞から見た《動作主》である場合, 誰が動作主であるかに関わらず [meN-] 形を用いる。以下の文例 [1] ~ [3] で, 動作主以外には特に違いがないことを確認できる。

- (11) Saya sudah menerima surat itu.
 <私 もう うけとる 書類 その>

私はその書類をもう受け取りました。

- (12) Anda sudah menerima surat itu?
 <あなた もう 受け取る 書類 その>
 あなたはその書類をうけとりましたか?

- (13) Dia sudah menerima surat itu.
 <彼 もう 受け取る 書類 その>
 彼(彼女)はその書類をもう受け取りました。

ゼロ形は対応する動作主が《動作対象》であり, 基本的に《動作主》が1・2人称文の主語が [meN-] 他動詞から見た《動作対象》で, かつ《動作主》が1・2人称の場合, 述語は《人称詞+ゼロ形》が不可分の関係となって述べる語構成となる。「不可分の関係」とは, 人称詞とゼロ形の間に他の要素が入り込むことができないということである。助動詞を併せて用いる際には, 例文 (14)~(16) のように《人称詞+ゼロ形》の前に現れる。

- (14) Surat itu saya terima kemarin.
 <書類 その 私 受け取る 昨日>
 その書類は昨日受け取りました。
 (動作主 = saya 「私」)

- (15) Surat itu akan saya terima besok.
 <書類 その これから 私 受け取る 明日>
 その書類は明日受け取ります。
 (動作主 = saya 「私」)

- (16) Surat itu sudah anda terima?
 <書類 その もう あなた 受け取る>
 その書類はもう受け取りましたか?
 (動作主 = Anda 「あなた」)

[di-] 形は対応する動作主が《動作対象》であり, 基本的に《動作主》が3人称, 文の主語が [meN-] 他動詞から見た《動作対象》で, かつ《動作主》が3人称の場合, 述語は di- 形となり, 《動作主》も述べる場合には [di-] 形の直後に続ける (例文 (17) か, 前置詞「oleh」を伴って述べる (例文 (18))。

- (17) Surat itu diterima ayah saya kemarin.
 <書類 その di- 受け取る 父 私 昨日>
 その書類は私の父が昨日受け取りました。

- (18) Surat itu diterima oleh ayah saya kemarin.
 <書類 その di- 受け取る が/に 父 私 昨日>
 その書類は私の父が昨日受け取りました。

「彼/彼女」が《動作主》であるときには, 多くの場合 [-nya] となって [di-] 形の動詞に直接続ける (例文 (19)) か, 前置詞「oleh」に続ける (例文 (20))。

- (19) Surat itu diterimanya kemarin.
 <書類 その di 受け取る nya 昨日>
 その書類は彼(彼女)が昨日受け取りました。

- (20) Surat itu diterim olehnya kemarin.

< 書類 その di 受け取る 彼 nya 昨日 >

その書類は彼(彼女)が昨日受け取りました。

《動作主》が文脈により一般的な人々であるため特に言及する必要がない場合、[di-] 形の動詞のあとに《動作主》を表す語が述べられないこともよくある、(例文 (21))。

(21) Surat itu sudah diterima kemarin.

< 書類 その もう di 受け取る 昨日 >

その書類は昨日すでに受け取りました。

dia「彼/彼女」、meréka「彼ら/彼女ら」は3人称の代名詞であるが、人称形構文では[di-]形を用いることも、例文(22)~(23)のように《人称詞+ゼロ形》を用いることもある。

(22) Surat itu sudah dia terima kemarin

< 書類 その もう彼(彼女) 受け取る昨日 >

その書類は彼(彼女)が昨日すでに受け取りました。

(23) Surat itu sudah meréka terima kemarin.

< 書類 その すでに彼ら(彼女ら) 受け取る昨日 >

その書類は彼ら(彼女ら)が昨日すでに受け取りました。

以上のように[meN-]他動詞は[-kan], [-i], 接頭辞[per-], [di-]を伴う派生語が、文中における《動作主》と《動作対象》を明示することができる。また、[meN-]形、ゼロ形、[di-]形の3つの形の基準で説明することができるといえる。

6. 談話における接頭辞 [meN-] の省略

インドネシア語の接辞は、日本語の助詞や助動詞などと比べると確かに法則性がわかりやすく、用法が多岐に分かれて便利である。これまでの流れの中から、動詞に接頭辞の「meN」がつくと、基本的には丁寧な表現となるが、口語では省略傾向が強い。その省略形の特徴を探っていく。

(24) melihat → lihat → liat「見る」

(24)の例では単語の中のhも日常会話で早口で言ったときには全く発音されないことも多い。(25)も同様である。

(25) a. kasih tahu → kasitau「知らせる」

b. mendengar → dengar「聞く」

c. mencuci → cuci「洗う」

(26)の例では接頭辞がつくために、動詞の原形の先頭に変化が起こる例がある。

(26) a. tulis → menulis「書く」

b. tunggu → menunggu「待つ」

c. tolong → menolong「手伝う」

また、(27)の例のような接頭辞[meN-]が省略さ

れると、次のようになる。

(27) a. potong → memotong → motong「切る」

b. arti → mengerti → ngerti「分かる」

c. pakai → memakai → makai「使う」

この変化は、他の単語のように聞こえてしまう傾向もあるが、自分が使うか使わないかに関わらず、聞き取りが容易になる。これは接頭辞が省略されているので、原形を使わなければならない命令形や受身形などの場面では、この省略形は使えない。

(28) ○ Saya nunggu di sini ya.

< 私 待つ に/で ここ ね >

私はここで待っているからね。

Tunggu di sana ya.

< 待つ に/で ここ ね >

そこで待っててね

× Nunggu di sana ya.

(29) ○ Tolong dipotong rambutnya.

< ください di 切る 髪の毛 nya >

髪の毛を切ってください。

× Tolong dimotong rambutnya.

(30) ○ Tolong pakai yang ini.

< ください 使う yang これ >

これを使ってください。

× Tolong makai yang ini.

口語では接頭辞[meN-]を省略して話すことも多いが、目上の人や初対面の人などには、[meN-]を省略することができない。また、語形変化には、単に[meN-]を省略したのではなく、以下の(31)の例のような特殊な変化をするものもあるため、注意が必要である。

(31)

上の特殊な省略語の例は、スندا語やジャワ語の中に存在している言葉である。これらの言葉により、地

基語	派生語	特殊な省略	意味
baca	membaca	baca	読む
lihat	melihat	liat	見る
pukul	memukul	mukul	蹴る
panggil	memanggil	manggil	呼ぶ
suruh	menyuruh	nyuruh	命令する
ambil	mengambil	ngambil	取る
kasih	mengasih	ngasih	あげる
cari	mencari	nyari	探す
cuci	mencuci	nyuci	洗う
coba	mencoba	nyoba	試す

域語がインドネシア語に影響を与えていることがわかる。また、[meN-]他動詞に使われる接辞は、接頭

辞 [meN-], 接尾辞 [-kan], 接尾辞 [-i] の三つであるが, これらの組み合わせによって以下の三種類の構造を持った [meN-] 動詞が存在する。

- ① meN- 動詞 → membeli → beli 「買う」
- ② meN- 動詞 -kan → melakukan 「行う」
- ③ meN- 動詞 -i → memiliki 「所有する」

これらのいずれの構造を持った [meN-] 他動詞も, 接頭辞 [meN-] もしくは接頭辞 [meN-] を含む接辞 [meN- 動詞 -kan], [meN- 動詞 -i] によって派生される。

接頭辞 [meN-] のない形態でもそれらは文中において他動詞として使用される。文法的意味は [membeli] と同じであり形態素 [beli] から語, [membeli] へのプロセスを経た後に, 接頭辞 meN- が省略されたものであると考えられる。

7. 終わりに

他動詞における接頭辞 [meN-] は, その他の接頭辞 [di-] やゼロ接辞と共に屈折接辞としての機能を担っており, [meN-] 接続の他動詞が他動詞であるための必要条件ではない。このことは同時に, 接頭辞 [meN-] 他動詞を派生する機能は持っておらず, [meN-] 他動詞の派生機能を担っているのは接尾辞 [-kan] や [-i] またはそれらに代わるゼロ接辞であるということの意味する。自動詞における接頭辞 [meN-] は, 派生接辞としての機能を担っており, その自動詞が自動詞であるための必要条件である。そのため, いかなる形態においてもこの接頭辞 [meN-] が他の形態素と置き換えられることはない。

以上のように, 他動詞における接頭辞 [meN-] と, 自動詞における接頭辞 [meN-] はそれぞれ異なる機能を担っており, 自動詞における接頭辞 [meN-] が派生接辞としての機能を有しているのに対し, 他動詞における接頭辞 [meN-] は, 派生接辞としての機能は持っておらず, 屈折接辞として表している。また, 口語では接頭辞 [meN-] は省略することができる。共接辞 [meN- 動詞 -kan] と [meN- 動詞 -i] を組み合わせ, 新しい派生動詞を作ることができる。

インドネシア語の動詞変化は日本語の動詞変化とは異なり, 能動態と受動態の意味・機能をも変化させる。インドネシア人日本語学習者や日本人インドネシア語学習者に接辞の付加により, 派生動詞の意味・機能に変化することを正確に教えることは重要である。正確なインドネシア語を習得するためには接辞の詳細

な用法を習得することが不可欠である。

インドネシア語の派生動詞の意味・機能及びその用法を詳細に把握していくことは, インドネシア人日本語学習者ならびに日本人インドネシア語学習者にとって, 著しく困難である。具体的な指導の開発は, 今後の課題としたい。

【参考文献】

- 牛江清名 (1975) 『インドネシア語の入門』白水社
- 崎山理 (1982) 「インドネシア語の文の基本的構成」『講座日本語学10 外国語との対照 I』62-83明治書院
- 崎山理 (1982) 「インドネシア語の語彙」『講座日本語学12 外国語との対照 III』103-118明治書院
- 佐々木重次 (1982) 「インドネシア語における態の問題」『講座日本語学10 外国語との対照 I』292-304 明治書院
- 左藤正範 (1997) 『超入門インドネシア語』大学書林
- 降幡正志 (2005) 『インドネシア語のしくみ』白水社
- 高橋正幸 (2003) 「コーパスを利用したインドネシア語接辞の語構成規則の調査」東京外国語大学論集
- 田中真理 (1991) 「インドネシア語を母語とする学習者の作文に現れる「受身」についての考察」『日本語教育』74号109-122日本語教育学会
- ドミニクス・バタオネ, 近藤由美著 (1989) 『バタオネにおまかせバタオネのインドネシア語講』めこん
- ホラス由美子 (2006) 『インドネシア語レッスン初級1』スリーエーネットワーク
- ホラス由美子 (2006) 『インドネシア語レッスン初級2』スリーエーネットワーク
- 松岡邦夫 (1990) 『インドネシア語文法研究』大学書林
- 森山幹広&柏村彰夫 (2003) 『教科書インドネシア語』めこん
- Badudu, J.S (2000) *Kamus Umum Bahasa Indonesia*. Balai Pustaka
- Chaer, Abdul (1994) *Linguistik Umum*. Rineka Cipta Jakarta
- Departemen Pendidikan dan Kebudayaan (2001) *Kamus Besar Bahasa Indonesia*. Balai Pustaka
- Parera, Jos Daniel (1994) *Morfologi Bahasa*. Gramedia Pustaka Utama
- (1988), *Kamus Pemakaian Dasar Bahasa Jepang* 国立国語研究所